

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

第2期東村むら・ひと・しごと創生総合計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

沖縄県国頭郡東村

3 地域再生計画の区域

沖縄県国頭郡東村の全域

4 地域再生計画の目標

本村は、沖縄本島北部の東海岸に位置する自然豊かな村で、北は国頭村と大宜味村、南西は名護市と接し、南東は太平洋に面しています。

本村の人口は、1980年は2,300人でしたが、2020年（国勢調査）には1,598人となり、過去最低の記録を更新した結果となっています。国立社会保障・人口問題研究所の推計では2045年に1,210人まで減少すると見込まれています。年齢3区分別人口の推移をみると、年少人口、生産年齢人口ともに減少傾向にあり、それに反して老年人口は増加し、少子高齢化社会は着実に進行しています。2020年では、年少人口198人、生産年齢人口813人、老年人口587人となっています。自然動態については、1999年に初めて自然減の超過を迎え、2006年までは自然増超過及び減超過変動していましたが、2007年以降は減超過が続いています。合計特殊出生率は、1996年に初めて2.07を割り込み、2007年以降は、連続してこの水準を下回る状況が続いています。また、2018年は1.42人となっております。社会動態については、1985年の時点から転出超過の状況となっており、2001年から2006年の6か年や2008年、2010年では転入超過になることはあっても、その他の年でそれを相殺するような転出超過が生じ、さらに、2012年から2017年の6年間は転出超過が続いています。

少子高齢化の進行に伴う生産人口の減少がこのまま続くことで、地域経済の衰退や地域活動の低下など、本村に大きな影響を及ぼすことが懸念されています。

このことを踏まえ、下記の基本目標を掲げ、本村の抱える課題解決に取り組んでいきます。

- ・基本目標Ⅰ 東村の特徴・資源をいかした「しごと」創出
- ・基本目標Ⅱ 東村のもつ魅力をいかして「人の流れ」をつくる
- ・基本目標Ⅲ 東村でのびのびと子育てができる環境の充実
- ・基本目標Ⅳ 東村に愛着を持ち、住み続けられる「むら」を目指す
- ・基本目標Ⅴ 東村の移住・定住につながる情報発信の強化
- ・横断的な目標 新しい時代の流れを力にする

【数値目標】

5－2の ①に掲げる事業	分野	事業名・施策名	K P I	現状値 (計画 開始時 点)	目標値 (R12 年度)	達成に寄与 する地方版 総合戦略の 基本目標
ア	雇用の 創出	①企業誘致企 業支援事業	企業誘致起業支援数（5 年）	3社	6社	基本目標Ⅰ
			やりたい仕事を見つけや すい	2.2	2.5	
			適切な収入を得る機会	2.3	2.6	
			新たな挑戦・成長の機会	2.5	2.8	
		②新規就農促 進事業	新規就農者数（単年）	5人	6人	
		③地域おこし 協力隊等活用 事業	地域おこし協力隊受入者 数（5年）	0人	10人	
	産業の 振興	①商品開発支 援	新商品開発数（5年）	0件	10件	
		②担い手育成	新規認定農家数（単年）	2人	3人	

		事業				
イ	福祉の 充実	①健康予防（ 検診）	検診受診率	20.4%	33.0%	基本目標Ⅱ
ウ	学習環 境等の 整備	①学習満足度	教育環境の満足度	2.9	3.2	基本目標Ⅲ
			学びたいことを学べる機 会	2.9	3.2	
			若者が活躍しやすい雰 囲気	2.6	2.9	
	子育て 支援	①子育て支援 満足度調査	子育て支援の満足度	3.2	3.5	
			子どもがいきいき暮ら せる	3.3	3.6	
			生活満足度	5.4	5.7	
エ	住宅等 の整備	①定住促進住 宅整備	定住促進住宅整備戸数（ 5年）	79戸	121戸	基本目標Ⅳ
		②村営住宅建 替	村営住宅建替団地数（5 年）	3団地	4団地	
	生活環 境の整 備	①公共交通整 備	公共交通の利便性	1.8	2.1	
			地域の雰囲気心地よさ	3.5	3.8	
			安心・安全	2.6	2.9	
		②防災組織の 支援	防災組織数	0地区	2地区	
			生活環境	2.9	3.2	
			地域の人間関係	3.7	4.0	
		③防災士の育 成	防災士認定数	0人	6人	
			生活環境	2.9	3.2	
			地域の人間関係	3.7	4.0	
オ	情報発 信の強 化	①魅力発信事 業（SNS等）	SNSフォロワー数	1,500	6,000	基本目標Ⅴ
			地域への愛着	3.7	4.0	
			地域の雰囲気心地よさ	3.5	3.8	
			自然景観満足度	3.8	4.1	

		②移住体験支援事業	お試し移住体験数	10件	10件	
			地域への愛着	3.7	4.0	
			自然景観満足度	3.8	4.1	
			地域の雰囲気の心地よさ	3.5	3.8	
		③やんばる東村の魅力発信事業	観光交流人口	25万人	30万人	
力	横断指標	①幸福度	幸福度	7.0	7.3	横断的な目標
		②生活満足度	生活満足度	6.2	6.5	

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

東村まち・ひと・しごと創生推進計画事業

ア 東村の特徴をいかした「しごと」をつくる事業

イ 東村の魅力をいかして「人の流れ」をつくる事業

ウ 東村でののびのびと子育てができる環境をつくる事業

エ 東村に愛着を持ち、住み続ける「むら」をつくる事業

オ 新しい時代の流れを力にする事業

② 事業の内容

ア 東村の特徴をいかした「しごと」をつくる事業

第一次産業や観光資源などの地域の強みを最大限に活かし、高付加価値化や6次産業化、企業誘致を推進することで、地域内における安定した雇用創出と所得向上を図る。

イ 東村の魅力をいかして「人の流れ」をつくる事業

自然環境や地域文化などの魅力を活かした甲虫・観光の推進、情報発信の強化により、交流人口・関係人口の拡大を図るとともに、移住・定住につながる人の流れを創出する。

ウ 東村でのびのびと子育てができる環境をつくる事業

子育て支援や教育環境の充実を図ることで、安心して子どもを産み育てられる環境を整備し、若い世代の定着と将来の人口基盤の確保を図る。

エ 東村に愛着を持ち、住み続ける「むら」をつくる事業

生活基盤の整備や地域コミュニティの強化により、村民が安心して暮らし続けられる環境を構築し、地域への愛着と定住意識の向上を図る。

オ 新しい時代の流れを力にする事業

デジタル技術の活用や多様な主体との連携により、新たな価値創造と地域課題解決を推進する。

※なお、詳細は第3期東村むら・ひと・しごと創生総合戦略のとおり

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

1,750,000 千円（2026年度～令和2030年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）

毎年度9月頃に外部有識者による効果検証を行い、翌年度以降の取り組み方針を決定する。検証後速やかに本村公式WEBサイト上で公表する。

⑥ 事業実施期間

地域再生計画の認定の日から2031年3月31日まで

6 計画期間

地域再生計画の認定の日から2031年3月31日まで